

■コメント

1. ヘルパンギーナ

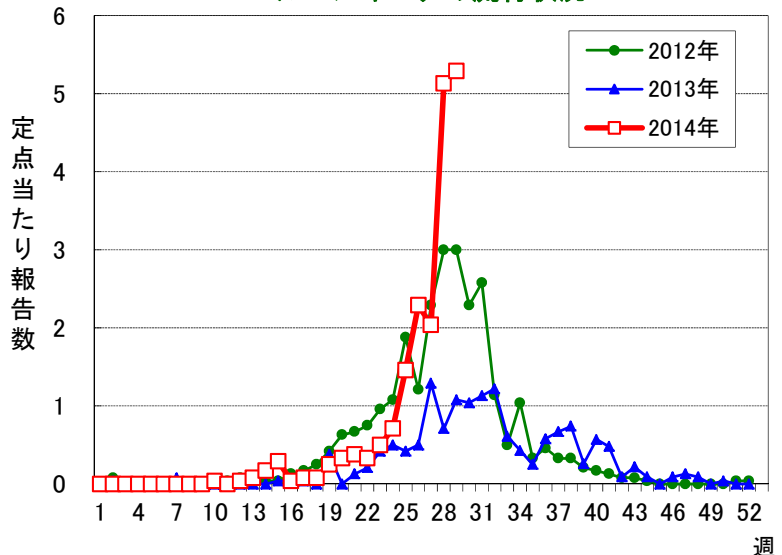
定点当たり報告数は5.29人と、多い状態が続いています。なお、患者の年齢は、4歳以下の乳幼児の占める割合が高く、1歳が最も多くなっています。

この疾患は、回復して発熱や口の中の水疱などの症状がなくなっても、2～4週間の長期間にわたって便などにウイルスが排泄されるので、感染予防のためには、手洗いの励行と排泄物の適切な処理を心がける必要があります。

2. レジオネラ症

2件の報告があり、今年の累計は15件となりました。

ヘルパンギーナの流行状況



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)	過去5年間	発生記号
小児科	インフルエンザ	1	0.03	0.03		
	咽頭結膜熱	16	0.67	0.75		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	54	2.25	0.79		
	感染性胃腸炎	102	4.25	3.47		
	水痘	26	1.08	0.75		
	手足口病	11	0.46	4.53		
	伝染性紅斑	-	-	0.23		
	突発性発しん	14	0.58	0.57		
	百日咳	-	-	0.11		
	ヘルパンギーナ	127	5.29	1.97		
定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)	過去5年間	発生記号
小児科	流行性耳下腺炎	18	0.75	0.85		
	RSウイルス感染症	2	0.08	0.05		
眼科	急性出血性結膜炎	-	-	0.03		
	流行性角結膜炎	5	0.63	0.78		
基幹	細菌性髄膜炎	-	-	0.06		
	無菌性髄膜炎	-	-	0.17		
	マイコプラズマ肺炎	1	0.14	0.34		
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-		
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-		

急増減 ↑ ↓ 前週と比較しておおむね1:2以上の増減

増減 ↗ ↘ 前週と比較しておおむね1:1.5～2の増減

微増減 ↗ ↘ 前週と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減

横ばい ⇐ ⇨ ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	2	99	女性(20歳代)・1人、女性(70歳代)・1人
4	A型肝炎	1	17	女性(50歳代)
4	レジオネラ症	2	15	男性(70歳代)・1人、男性(80歳代)・1人

■定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

			インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	RSウイルス感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	(ロタウイルス)	感染性胃腸炎
報告数	広島市	第25週	3	12	57	178	34	2	1	20	1	35	19	1	-	5	-	1	-	-	3	
		第26週	1	17	61	126	35	7	-	20	-	55	32	-	-	2	-	1	1	-	-	
		第27週	1	14	76	130	32	5	-	15	1	49	24	2	-	4	-	2	2	-	-	
		第28週	-	15	79	127	23	9	1	13	-	123	25	-	-	4	-	-	1	1	-	
		第29週	1	16	54	102	26	11	-	14	-	127	18	2	-	5	-	-	1	-	-	
定点当たり	広島市	第25週	0.08	0.50	2.38	7.42	1.42	0.08	0.04	0.83	0.04	1.46	0.79	0.04	-	0.63	-	0.14	-	-	0.43	
		第26週	0.03	0.71	2.54	5.25	1.46	0.29	-	0.83	-	2.29	1.33	-	-	0.25	-	0.14	0.14	-	-	
		第27週	0.03	0.58	3.17	5.42	1.33	0.21	-	0.63	0.04	2.04	1.00	0.08	-	0.50	-	0.29	0.29	-	-	
		第28週	-	0.63	3.29	5.29	0.96	0.38	0.04	0.54	-	5.13	1.04	-	-	0.50	-	-	0.14	0.14	-	
		第29週	0.03	0.67	2.25	4.25	1.08	0.46	-	0.58	-	5.29	0.75	0.08	-	0.63	-	-	0.14	-	-	
	全国	第27週	0.07	0.76	2.13	4.62	0.95	0.78	0.32	0.67	0.02	2.54	0.40	0.08	0.01	0.67	0.02	0.07	0.29	-	0.07	
		第28週	0.04	0.76	1.99	4.28	0.83	0.96	0.37	0.64	0.02	3.73	0.38	0.09	0.01	0.71	0.01	0.05	0.26	0.01	0.06	

■新たに判明した病原体検出状況

(検査:広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
感染性胃腸炎	下痢	0	女	2014/06/04	糞便	コクサッキーウイルスA4型
その他の消化器疾患	腹痛	1	男	2014/05/24	糞便	サポウイルス アデノウイルス3型

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

★腸管出血性大腸菌感染症に注意しましょう

広島市における腸管出血性大腸菌感染症の今年の累積報告数は、3件と例年に比べて少ないですが、毎年多く発生する夏季に入り、全国的にはすでに増加し始めています。今後、広島市でも増加する可能性があります。特に子どもと高齢者は重症化しやすいため、徹底した感染予防が重要となります。

予防のために次のことに注意しましょう。

- 手洗いを励行しましょう。
- 肉・レバーなどは十分加熱し、生食は控えましょう。
- 食品は衛生的に取り扱い、調理器具はよく消毒しましょう。
- 乳幼児や高齢者のオムツの取り扱いには十分注意しましょう。
- 家庭用プールを介して感染すること考えられるので、衛生管理に気をつけるとともに、入る前によく体を洗いましょう。

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。

URL <http://www.city.hiroshima.lg.jp/eiken/center.html>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp

2014年第29週(7月14日～7月20日)